

名古屋情報処理センター所長時代の思い出

田川 光照(経営学部)

2000年の夏休み明けだったと思うが、次期名古屋情報処理センター所長を引き受けないかという声がかかった。それまで情報処理センター委員をやったこともなかったので、青天の霹靂であった。

とはいえ、それまでセンターとの接点がなかったわけではない。1995年に稼働したマルチメディア教室設置の際に、外国語担当者会議の代表としてかわり、情報処理センターとの間で何回か協議し、Macintoshの導入を要望した。その後のリプレースでWindows機に変更されたが、本学で最初の本格的なMacintosh導入であった。

そして、図書館内のメディアゾーンが現在のものに改修された前年の1997年には、外国語研究室の代表として情報処理センター所長の長谷部勝也先生および図書館長の浅尾仁先生との間で繰り返し協議を行った(この協議会の座長は浅尾先生であった)。

そのようなわけで、情報処理センターとの接点がなかったわけではなく、また、第5期教育研究情報システムが稼働するばかりになっており(『COM』の36号に載っているセンターの沿革で、第5期のシステム稼働が2000年4月となっているが、10月10日稼働である)、当面大きな事業はないということで引き受けたのであった。

豊橋のセンター所長は小津秀晴先生で、小津先生が全体の所長を務められ、私は副所長となった。その体制のもとですぐに取りかからなければならない事業として、名古屋校舎東教室棟E201番教室・E202番教室のリプレースおよび教材提示システムの設置があった。現代中国学部教授会から学部長会議を経て要望が出されていたものであるが、センターの中長期計画の見直しと絡めて検討され、2001年にリプレースされた。

当時、既設学部のシステム、新設学部である現代中国学部(名古屋校舎東教室棟)のシステムと国際コミュニケーション学部(豊橋校舎5号館)のシステムという3つのシステムが共存しており、それらを統合することが最大の課題であった。この課題の解決を視野に入れて第5期システムを2004年3月まで6ヶ月延長し、2004年のシステム更新の際にすべてを同じシステム環境に統合するというのが、中長期計画の骨子であった。

その他、名古屋校舎教室棟地下の大教室(003教室および005教室だったと思う)の教材提示システムの設置などがあった。

情報機器を担当する部署で一番困ることのひとつは、何らかのトラブルで授業に支

障が生じるということである。それが2000年12月に起こった。車道校舎の今はなき1号館にあった実習室での長谷部先生の授業で、2週連続してLinuxクライアントにログインできないという事態が発生したのである。学期末が近づいている時期に、しかも2週連続してのトラブルであったため、翌1月に情報処理センター副所長名で受講者に謝罪文を出した。

ところで、情報メディアセンターのホームページには2001年12月発行の『COM』第21号からPDFファイルがアップされている。このCOMのPDF化は私が名古屋情報処理センター所長時代に始まったものであり、語学教育研究室の紀要『言語と文化』(2001年7月発行の第5号からPDFをホームページで公開)とともに、本学において紀要の電子化による公開の先駆けとなった。

最後に、当時の名古屋情報処理センター職員の皆さんは、課長が2000年度は藤原彰二さん、2001年度から樋口裕嗣さん、SEとしては田中邦彦さん、長谷川尚孝さん、濱口庸介さんがいたが、その後の人事異動により、水谷伸司さんと石原有希子さんの布陣となった。頼りない所長であったので、この皆さんには随分ご迷惑をおかけしたことと思う。